

学校自己評価

学校自己評価とは、戸田中央看護専門学校が、組織的・継続的な教育活動の改善を行い、学生・卒業生、関係者との連携協力による特色ある学校づくりを推進するために行う評価です。学校評価は教育機関としての機能を包括的に判定する学校関係者評価と、教職員による学校運営全般、卒業生による教育活動等、在校生による授業アンケートの評価からなっています。平成30年度より実施されています。

令和5年度の取り組みと評価

<令和5年度 学校自己評価結果と前年度の比較>

表1大項目評価(卒業生・在校生)

評価基準 5 大いに当てはまる 4 当てはまる 3 どちらでもない 2 当てはまらない 1 まったく当てはまらない

	No	I	II	III	IV	V	VI	平均
	項目	教育理念 目標	学校運営	教育活動	学修成果	学生支援	教育環境	
卒業生	R1	4.1		4.0	4.2	4.0	4.3	4.12
	R3	3.76		3.76	3.85	4.08	3.83	3.86
	R4	4.22		3.81	3.93	4.13	3.89	3.99
在校生	R5	3.66		3.66	3.72	3.96	3.98	3.80

- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、卒業生へのコンタクトが難しくなっており調査できていない。
- ・来年度は、卒業生の里帰りを企画内で、アンケート調査を行う予定となっている。
- ・すべての項目で3.5以上の評価ではあるが、評価のポイントは低下している。
- ・学生には教育理念と目標がつながるような目標管理が行っていきけるよう改めて見直していく。
- ・教育活動について、授業評価のポイントは上がっているため(表5)、次年度特に実習指導力の向上を図っていく。
- ・教育環境に関しては、プリンタやWi-Fiの整備により評価が上がっていると考えられる。

表2大項目評価(教職員)

評価基準 5 大いに当てはまる 4 当てはまる 3 どちらでもない 2 当てはまらない 1 まったく当てはまらない

No	I	II	III	IV	V
項目	教育理念 目標	学校運営	教育活動	学修成果	学生支援
R4	3.5	3.1	3.6	3.4	3.7
R5	3.7	3.4	3.7	3.4	3.7

No	VI	VII	VIII	IX	X	平均
項目	教育環境	学生の受け入れ 募集	財務	法令等の遵守	社会貢献地 域貢献	
R4	3.5	3.3	3.2	3.7	3.3	3.5
R5	3.6	3.6	3.1	4.0	3.9	3.6

グーグルフォームを使用し5段階リッカート尺度にて調査した。

表3 在校生アンケート結果 3 学年比較(R4年度)

	1年生	2年生	3年生	平均
教育理念、教育目標	4.41	3.83	4.49	4.22
授業・授業評価	3.90	3.63	3.94	3.81
実習	3.89	3.74	3.85	3.82
国家試験対策	3.89	3.72	4.27	3.93
学校行事	4.12	3.90	3.85	3.97
学生支援	4.31	3.96	4.12	4.13
教育環境	4.05	3.67	3.97	3.89
学校生活全般	4.12	3.91	4.55	4.16

1年生 回答率 87.1%
2年生 回答率 95.5%
3年生 回答率 65.6%

表4 在校生アンケート結果 3 学年比較(R5 年度)

	1年生	2年生	3年生	平均
教育理念、教育目標	4.00	3.51	3.43	3.66
授業・授業評価	3.86	3.43	3.64	3.66
実習	3.97	3.46	3.72	3.73
国家試験対策	3.77	3.48	3.89	3.72
学校行事	3.98	3.65	3.68	3.78
学生支援	4.27	3.72	3.87	3.96
教育環境	4.19	3.88	3.86	3.98
学校生活全般	4.17	3.97	4.19	4.11

1年生 回答率 84.9%
2年生 回答率 80.3%
3年生 回答率 94.4%

例年2年次の評価が低くなる傾向がある。2年次は、多くの課題、1月からの領域別実習の開始などにより、負担感が大きくなっていると推察される。

表5 授業評価

	R4	R5
学生自身の取組み	3.87	4.08
授業の進め方	4.12	4.45
授業の工夫	4.14	4.45
担当教員について	4.22	4.47
授業の成果	4.18	4.46
総合評価	4.14	4.47

授業については、すべての項目で昨年度より評価が高くなっている。教育実践の研修会への参加増加により教員の教育実践力が向上してきていることや、各看護学領域内全員で演習に取り組んだことが要因としてあげられる。また、それが学生自身の取組みを促す授業となったと考える。R5年度よりICT教育の一環として電子テキストを導入し、iPadを用いた授業を行ったが、授業評価のポイント低下はなく、むしろ上がっている。

表6 成績評価

	R4	R5
A 評価	80人	62人
B 評価	45人	48人
C 評価	0人	1人
D 評価	0人	0人

年間を通した各科目の成績(卒業時)

A 評価は 80 点以上、B 評価は 70 点～80 点未満、C 評価は 60 点～70 点未満、D 評価は 60 点以下

表 7-1 学年目標(3 年次) 自己評価結果

3 年次目標		平均	
礼	1. 他者とアサーティブなコミュニケーションをとり、円滑な人間関係をつくる	4.1	4.1
	2. 医療チームでのリーダーシップ、メンバーシップ のあり方を考える	4.0	
	3. 社会的役割を自覚して主体的行動をとる	4.0	
智	4. さまざまな場面に対応できる柔軟な応用力、実践力の基礎を身につける	3.6	3.8
	5. 自分の行った看護倫理と結び付けて振り返り、看護観を述べる	3.8	
	6. 医療・保健・福祉に関わる看護のあり方を考える	3.9	
技	7. 各発達段階、各健康水準に応じ、個性をもった日常生活の援助を実施する	3.7	3.7

ほとんどの項目で、3.5以上の評価となっている。

表 7-2 学年目標(2年次)自己評価結果

2 年次目標		平均	
礼	様々な状況にある人を思いやり、尊重しあい、相互作用の中で共に成長する力を身につけている。	3.6	3.6
	看護実践における道徳的・倫理的な責務を自覚した判断と姿勢を身につけている	3.6	
智	物事を様々な視点をもって探求し、看護の質向上を図る基本的な能力を身につけている。	3.3	3.3
技	健康の状態やその変化に応じた臨床判断を行う基本的な能力を身につけている	3.4	3.5
	地域共生社会における看護師の役割及び他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働する基本的な能力を身につけている。	3.6	

表 7-3 学年目標(1 年次)自己評価結果

1 年次目標		平均	
礼	様々な状況にある人を思いやり、尊重しあい、相互作用の中で共に成長する力を身につけている。	4.0	4.1
	看護実践における道徳的・倫理的な責務を自覚した判断と姿勢を身につけている	4.2	
智	物事を様々な視点をもって探求し、看護の質向上を図る基本的な能力を身につけている。	3.7	3.7
技	健康の状態やその変化に応じた臨床判断を行う基本的な能力を身につけている	4.0	4.0
	地域共生社会における看護師の役割及び他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働する基本的な能力を身につけている。	4.0	

表 8 保護者会実施状況

	令和4年度		令和5年度	
	時期	参加人数	時期	参加人数
1年生	2月	動画配信	4月	82名
			12月	動画配信
2年生	8月	動画配信	3月	動画配信
3年生	11月	動画配信	1月	動画配信

- ・入学式当日の1年生保護者会を5年ぶりに開催することができた。
- ・動画配信は、多くの保護者が視聴され、アンケートからは校内の生活がわかりやすいと好評をいただいた。

表 9 図書室利用状況 利用者数(名)

	1年生	2年生	3年生	教員	学外者	学生総数	総数(名)
令和元年度	1,319	5,869	8,390	1,122	116	15,578	16,816
令和2年度	1,105	1,535	5,300	1,112	53	7,940	9,105
令和3年度	1,054	2,384	7,500	1,713	38	10,938	12,689
令和4年度	1,261	4,041	4,994	1,518	68	10,296	11,882
令和5年度	949	4,194	3,960	1,415	36	9,103	9,258

- ・3年生の利用数が大幅に減少してきている。ケーススタディを行うときに利用が多かったが、校内 Wi-Fi の設置によりインターネット検索および資料へのアクセスが容易になったためと考えられる。
- ・1年生の利用数減少も iPad、電子テキストの導入により、検索が容易になったためかと推察できる。

表 10 ボランティア活動への参加述べ人数

ボランティア活動	令和3年	令和4年	令和5年
	人数(名)	人数(名)	人数(名)
グリーンレヅ 蕨・グリーンレヅ 朝霞台 夏祭り	中止	中止	—
グリーンレヅ 安行 夏祭り	中止	中止	12名
とだ優和の杜 夏祭り	中止	中止	12名
ピンクリボン活動	中止	117名	115名
戸田中央総合病院・戸田中央産院合同大規模災害訓練	中止	中止	中止
都立光が丘公園災害時共助訓練	中止	中止	60名
ボランティアサークル清掃活動	11名	4名	—
トルコシリア地震募金活動	—	14名	—
	11名	135名	201名

コロナ禍で中止になっていたボランティア活動の再開に伴い、参加者数が増加している。

表 11 研修への参加延べ人数(教員)

区 分	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
	人数(名)	人数(名)	人数(名)
授業設計	5 名		
シミュレーション	1 名	1 名	
教育実践	2 名	7 名	11 名
学会	7 名		5 名
教育評価			1 名
看護実践		4 名	2 名
管理			
カリキュラム			
国家試験対策	1 名	1 名	5 名
総数(複数回参加有)	16 名	13 名	24 名

対面での研修会の開催増加により、参加できるようになってきている。